

第284号・2022年11月10日(木)

発行・東北大学職員組合書記局

〒980-8577 仙台市青葉区片平二丁目1-1

内線 片平(91)5029

022-227-8888(TEL)

022-227-0671(FAX)

編集・コア編集委員会



*** 円安・物価高から
生活を守れ!**

*** 雇用の安定を!
十分な賃上げを!**

脱法の「無期転換のがれ」容認は、 法改正の趣旨に反する

— 控訴審・口頭弁論が行われました —



意見陳述後の報告集会

11月2日に、仙台高裁の101号法廷で開かれた(控訴は労働者側)。

控訴人および代理人(弁護団)の意見陳述では、無期転換権発生回避を目的とした「5年更新上限制度」とそれに基づく雇止めを許してよいのか、そして無期転換逃れの東北大学の種々の論理と方策が法の潜脱であることを改めて説明し原判決の破棄を訴えました。

被控訴人(東北大学)側は、3年上限から5年上限に変更したことと「利益が生じた」と居直り、就業規則の1



挨拶の野間衆院議員・宮本衆院議員・秋山全労連副議長

参院議員会館とオンラインで開催され、約10名の国会議員、100名以上の参加者が集い開催されました。私がオンラインで参加して東北大の現状を報告し、野呂圭弁護士が現地で法の解釈と仙台地裁の判決の説明を行いました。



上段真ん中が野呂弁護士

理化学研究所の10年問題が解決したような報道もありましたが、「10年上限撤廃」は2023年4月からだそうで、今年度末の大量雇止めは行われるようです。また専修大、東海大、慶応大では、非常勤講師の多くがほぼ一律に今年度末で雇止めされる予定だそうです。

大学・研究開発法人での 雇止めSTOP院内集会

10/28

年遡及も違法ではないと主張しました。

当日で結審し、1月25日に判決となりました。

た。裁判所の判断に影響を与えるような、もう一踏ん張りの取り組みが必要です。

うです。いずれにしても、5年10年で雇止めすることが「普通に」行われている状況です。今それを打破しないと、固定化してしまう可能性があります。私たちももうひと踏ん張りだと思えます。

(委員長

片山知史さん)

第61回宮城県母親大会
12月11日(日) 13時から15時半
フォレスト仙台 大ホールほか
記念講演: 伊藤千尋さん
国際ジャーナリスト

お得な東北労金
ご利用ください



5年・10年「雇止め」、公務3年「リセット公募」 連帯で正念場へ

非正規・無期転換逃れはつらいよシンポジウム



片山委員長がパネラーとして参加（上段真ん中）

8月20日(土)
Youtube Liveによるオンライン開催
パネラー
北海学園大学
(労働経済)
教授 川村雅則
公務非正規女性全国ネットワーク
(通称…はむねっと)
副代表 瀬山紀子
代表 藤川瑞穂
東北大学職員組合
執行委員長 片山知史
司会
札幌地域労組
書記次長 桃井希生

2013年に無期転換ルールができましたが、法の審議段階からの懸念通り、無期転換を恐れる企業による5年超え直前での雇い止めは今や社会問題になっています。しかし、今年3月に公表された厚生労働省主催「多様化する労働契約のルールに関する検討会」の報告書は、現場の労働者の保護になるような提言は少なく、労働者の声が政府に届いているとは言い難いものでした。

から、非正規雇用の現場最前線の状況や使用者側による悪用のされ方を共有し、無期転換ルールと有期雇用の現行法の問題点を討議しました。

非正規の方は「嫌なら辞めればいい」と言われるそうです。これは、雇用主側からすれば、願ってもない雰囲気、従業員から組織に対する声をあげにくくします。まさに消耗品のように使い捨てする都合の良い労働力となってしまう。です。非正規雇用・無期転換問題は、個別の職場内ではなく、職場・職種を超えた連帯の取り組みが必要です。

東北大の争議のみならず、公務セクター、社会全体の労働者問題にも、しっかりアンテナを張っていく必要があります。今年が一つの正念場です。

広範な県民・労働者と連帯

第34回宮城県労働組合総連合定期大会 9/3

さらに2023年3月には、10年無期転換ルールからの潜脱として、研究職の大量雇い止めも予想されています。そして同じく今年度末には、公務・非正規職員について、会計年度任用職員制度による公募(3年リセット)が実施され、大量雇い止めの危惧があります。

このような緊急性

第34回定期大会は、2年ぶりに対面で行われ、加盟18単組中17単組が出席しました。ハイレッドで、40名以上の代議員が会場に、5名の代議員がオンラインで参加しました。

前期の運動総括の後、次期の取り組みとして、特に医療体制の拡充、4病院の移転・統合反

対、年末一時金的大幅引き上げに注力する方針が認められました。加えて、東北大を含めた非正規雇い止め阻止、無期転換実現の取り組みも確認されました。

県労連は、広範な県民、労働者と手を組み、平和で安心できる暮らし・雇用の実現に取り組んでいます。私たち



40名以上の代議員が出席しました

も引き続き強く共闘していく必要があると感じました。

なお、執行委員の千葉裕輝さんが事務局次長、後藤洋子さんが会計監査として再任されたことを皆様にお伝えいたします。

いわさきちひろカレンダー

1本 1,400円

書記局で取り扱っております



いろいろ肌で感じた広島にて

初めて参加 核兵器廃絶しかなないと改めて認識

農学部支部 片山知史さん

コロナ感染拡大の影響で、宮城からの参加は3名だけとなりました。全体としても代表団を送ることを見送った県が多いなかですが、1300名の現地参加、950名のオンライン参加の大会となりました。私は初めての参加でしたが、この時期に広島に来ることで、いろいろと肌で感じるものがありましたし、考えを深めることができました。

世界大会2日目：木村緋紗子さん(宮城県原爆被害者の会)のお話を、ご自身が被爆した2年生の際に在籍していた袋町小学校の平和資料館で伺いました。ご親族を8名亡くし、その悲しみから、核兵

器廃絶の運動に取り組んでいらつしやることなど、とても率直にお話くださいました。

国内においては、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻を契機に、一部の国会議員等から、米国の核兵器を日本に常備する「核共有論」や「非核三原則」の一

宮城県医労連 第58回定期大会 8/27

4病院再編統合移転阻止を！

仙台市シルバーセンタにて24名中18名が参加し、うち5名がオンライン参加でした。

新型コロナウイルス感染拡大第7波の下で、各病院・施設の厳しい労働実態が報告されました。

若年層の感染拡大と家族感染による職場体制の困難な厳しい労働実態から退職も増え「派遣看護師」の限定導入も認めざるを得な

つである「持ち込ませず」を緩和すべきだとする見解が強く主張されています。世論も追隨しているようにみえます。人類が核兵器使用の惨禍から免れる唯一の保証は、核兵器廃絶しかないことを、私たちは、改めて認識すべきだと思います。

患者・地域住民を無視した4病院の再編・統合・移転に反対する署名活動の報告では、街頭で、自ら署名に足を向ける市民が多い状況があり、地域住民の切実な実態の表れと言え、何としてでも阻止しなければとの意思統一を確認しました。

のため、学生看護助手を雇い、人員を確保していること、このメリットとして、学生のリアルティショックが少なくと言われていることを報告しました。

2022年度の執行委員長に30代前半の方が就き、高齢化のなかで明るい兆しです。

(病院支部 中川佳子さん)

第67回日本母親大会 田中優子氏の講演を聞いて

10月16日群馬で行われた全体会にオンライン参加いたしました。

メインは記念講演、法政大学前総長田中優子氏の「自由を生きぬく実践知」という演題でした。トレードマ

- 1 自由を生き抜く実践知」とは何か
 - 2 今、女性たちが向き合すべき出来事
 - 3 「個人の人権」とジェンダー平等の関係
 - 4 「男女共同参画」は課題を解決したか
 - 5 ダイバーシティの価値と希望
- という5つの項目に分け講演されました。
- これまでの自民党政権におけるジェンダー政策、「GBI」に対する発言、また夫婦別姓制度の問題。そして今話題の統一教会の家族観などの話題に絡めて自民党が改憲を進めようとしている憲法について、現在の憲法と自民党案を並べ比較してあり非常に理解が深まる内容でありました。日本母親大会の原点ともなった平塚らいてうの思想も紹介しつつ、田中氏の著書も紹介されあつという間の1時間でした。
- (多元研支部 後藤 洋子さん)
- (田中氏の写真4面)

ひきだし

映画をめぐる自由と不自由

文科系支部 寺本 成彦さん

つい先日のことである。何かのはずみで、放課後に映画館へ自転車で乗り付ける高校生の姿を、映画の一シーンのようにありありと思い出した。それは四十年ほど前の自分自身の姿で、至福の自由の感覚と共に記憶の奥底から突如浮上してきた。長らく忘れていたその感覚は、中学卒業まで学校が許可する映画のみを鑑賞せざるを得ない「検閲」および「上映禁止」という不自由に

囚われた映画群が「自由の国」フランスにもあまたあることを知ったのは二〇〇〇年の夏、パリの映画館での「検閲と映画——スキャンダルを呼んだ十二本の映画作品」という特集のおかげだ。そこには反宗教的あるいは性風俗素乱とフランス内務省から見なされたものや、「反戦的」なるレッテルを張られたものもある。『埠頭での集會』

的に手に入れたいばかりに港灣労働者の青年ロベールは、兄や仲間を裏切りストライキ潰しに加担する。だが婚約者マルセルに諭されて思い直し、埠頭に駆けつけて仲間の組合員たちと合流する。出演者はその多くが本物の港灣労働者で、そのドキュメンタリー・タッチに圧倒された。

この力強い秀作はアルジェリア戦争が一九五四年に既に始まっていたフランスでは即座に上映禁止となり、製作後三十五年を経なければ再び一般公開されなかったことも付け加えておく。

(映画抜粋 <https://www.dailymotion.com/video/xaxxbi>)



『埠頭での集會』1990年2月公開時のポスター

Le rendez-vous des quais (一九五五年、仏、ポール・カルピタ監督) がその一本である。

インドシナ戦争中、マルセイユの港灣労働者がストを打ち、戦場への武器輸送を阻止しようとした実話に基づいている。住宅を優先

読者のこゑ

宮城県労連女性部代表として日本母親大会に参加してきました。

救済を申し立てることができる。日本の裁判を変え、司法を変えることができる」という話を聞き、早急に批准させる運動が重要だと感じました。

(直属支部 高橋 京さん)

編集後記



田中優子さん やさしい語り口でとても分かりやすいお話でした

あらためて、県労連定期大会記事の文中にある「広範な県民、労働者と手を組み、平和で安心できる暮らし・雇用の実現に取り組む」ことの大切さを感じています。

(編 M)